



病棟の取り組み紹介

平成から令和へと変わり、当院におきましても認知症治療病棟の新設から早いもので1年が経ちました。徐々に他の施設・病院様からの紹介も頂けるようになり、地域の方々にも認知されてきたと実感しています。

当院では、認知症の疑いのある方や、在宅・施設・病院等で認知症の症状（中核症状、行動・心理症状）により対応が困難な方々が入院されています。

認知症治療病棟では、生活機能訓練を治療プログラムとして行っております。

- (1) 患者一人に対し1日4時間を週5回、全ての患者さんを対象に生活機能訓練を行っています。（起床してから就寝するまで）
- (2) 医師の指導の下、作業療法士・看護師・精神保健福祉士・臨床心理士により集中的に行います。
- (3) 治療計画に基づいて行い、定期的な評価（3か月毎）を行っています。
- (4) 実施内容の要点及び実施に要した時間を診療記録等に記載します。

当院の認知症治療病棟を退院された方の例をご紹介します。

例1) 90歳代 女性（アルツハイマー型認知症）

認知症により在宅での生活が困難となり入院。入院当初は自力歩行が出来ず、意思疎通も困難な方でしたが、薬物療法と共に身体面・精神面のリハビリを実施しました。病棟スタッフとの交流を深める事でリハビリも自ら積極的にを行い、コミュニケーションを図れるようになり、退院時には歩行器を使用し歩行できるようになりました。

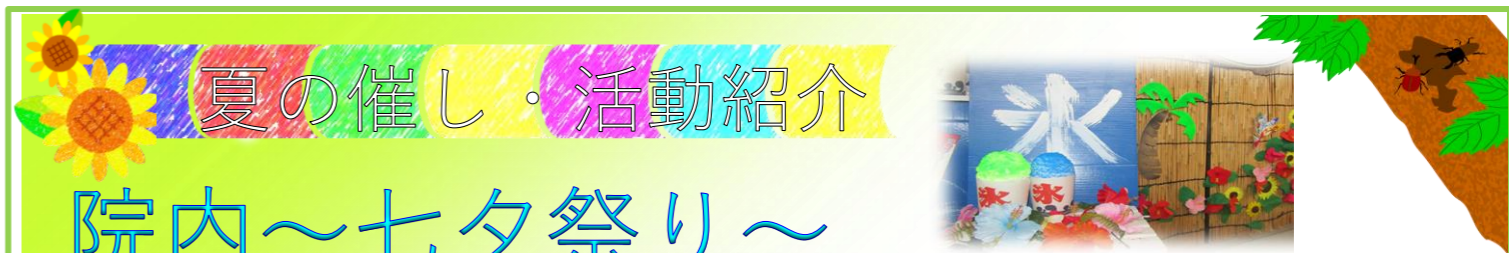


例2) 80歳代 女性（前頭側頭型認知症）

施設入所していましたが、処遇困難となり入院。服薬拒否やうつ傾向が強く、感情のコントロールが上手くできない患者さんでしたが、入院して治療を行っていく中で不安やうつ症状が緩和され状態安定していきました。その後3か月で前施設との連携を図り退院されました。

素敵な交流

当院で活動しているSST（社会生活技能訓練）のメンバーさん（他病棟の入院患者さん）が、認知症治療病棟へ、千羽鶴をプレゼントして下さいました。色鮮やかな千羽鶴に、心のこもったメッセージと一緒に添えてあり、代表で千羽鶴を受け取った患者さんは「ありがとう」と嬉しそうにしていました。お礼に、メッセージカードを手渡し、歌を披露しました。皆笑顔で和やかな雰囲気、私たちスタッフもほっこりさせられたひと時でした。



院内～七夕祭り～



7月8日、院内ホールにて七夕祭りを行いました。毎年7月に開催している行事ですが、今年も職員手作りの屋台でカキ氷と綿菓子を患者様に提供させていただきました。冷たいカキ氷と甘い綿菓子に、患者さん方の顔からも自然と笑みがこぼれていました。ホール入り口の七夕飾りには患者さんの願いがこもった短冊を飾りました。皆の願いが叶うといいですね。

院外～Dr 講話～

6月3日、「精神疾患についての理解、在宅の方に地域が出来る事」と題して、高瀬先生、新宮 PSW の講話が、あんぼう21にて加世田地域民生員（約60名）を対象に行われました。主な精神疾患の症状や治療法、退院後の社会資源や生活環境の整備に必要な事等、事例を通じて学びました。終了時のアンケートでは「精神障がい者の方の理解はできたが、本人・家族との関わり方や病院受診のタイミングが難しい」など、色々な意見がありました。今後も、精神疾患についてや、障がいを持った方々への理解を少しでも持ってもらうためこのような活動を継続していきたいと思っておりますので、地域の皆様のご協力をお願い致します。



副院長 高瀬元治先生



PSW 新宮享弘さん

リハ室便り～買い物外出～

新年を迎えると、「今年は買い物に行くんですか??」と病院のあちこちでそんな声が…。阿多病院では、6月と11月の年に2回、作業療法の一環として買い物外出を行っている為です。日程が決まると、「行けるお店は何かあるの?」「今回もスティックコーヒーを買うからね!」「買いたいものがありすぎて決められない」と皆ソワソワ、ワクワク。手元の貯金とにらめっこ。持って行く金額も全部自分で決めます。買い物当日は、皆目をキラキラと輝かせ、まだかまだかとこれまたソワソワ、ワクワク。広い店舗を隅々まで眺め、「靴は何処に売ってるの?」「あのお菓子は置いてないのかな?」「スティックコーヒーは何処かな?」と一緒にいるスタッフや店員さんへの聞き込み調査で、欲しい物にたどり着く。ひとしきり買い物を終えると、普段食べられないアイスクリームをほおばりながら、「コーヒーが買えた!」「靴が買えてうれしかった!」「また次も連れて行ってね!」と目をキラキラさせるも、夢の2時間はあっという間に終わり現実へ…。

この買い物外出は、実際の商業施設を利用し社会生活に近い環境での活動を通して、入院されている方が少しでも社会との関わりを持つ事で、退院後の生活を具体化し、退院意欲の向上を目的として行っています。



「Talk Salon ふむふむ」始めました。

この度、院内の入院患者さんを対象とした新たな取り組みとして、トークサロンを始めました。名称は「Talk Salon ふむふむ」です。誰でも自由に話が出来る場としてスタートしました。最初は患者さん方も「トークサロンって何をするとこ？」とやや不審そうでしたが、いざ始めると毎回たくさんの患者さんが参加してくださり、皆でお茶しながら何気ない世間話から始まり小さい頃の思い出話や家族の事。入院前の生活や入院してからの事など、かねて聞けないような話を色々聞かせてくれます。中には、2時間みっちり話して帰るとても話好きな患者さんも。帰り際「かたいとばけて、ごめんな」と照れ笑う姿が印象的です。患者さんが話したい事を好きに話してください。ストレス解消の場になればと思っています。

PS 名称の「ふむふむ」は、会話中の相槌からきています。



たつとび

～夏いろ便り～

2019年7月
第3号



就労継続支援 B 型事業所 さくら工房

職業経験を生かして
人生をゆたかにしてみませんか？

主な作業：○電子部品の組み立て ○野菜の袋詰め ○箱作り
○公園管理 ○芋の皮むき など。

昼食のお弁当を 100 円で提供させていただいております。
お問い合わせは、さくら工房まで！



旬食

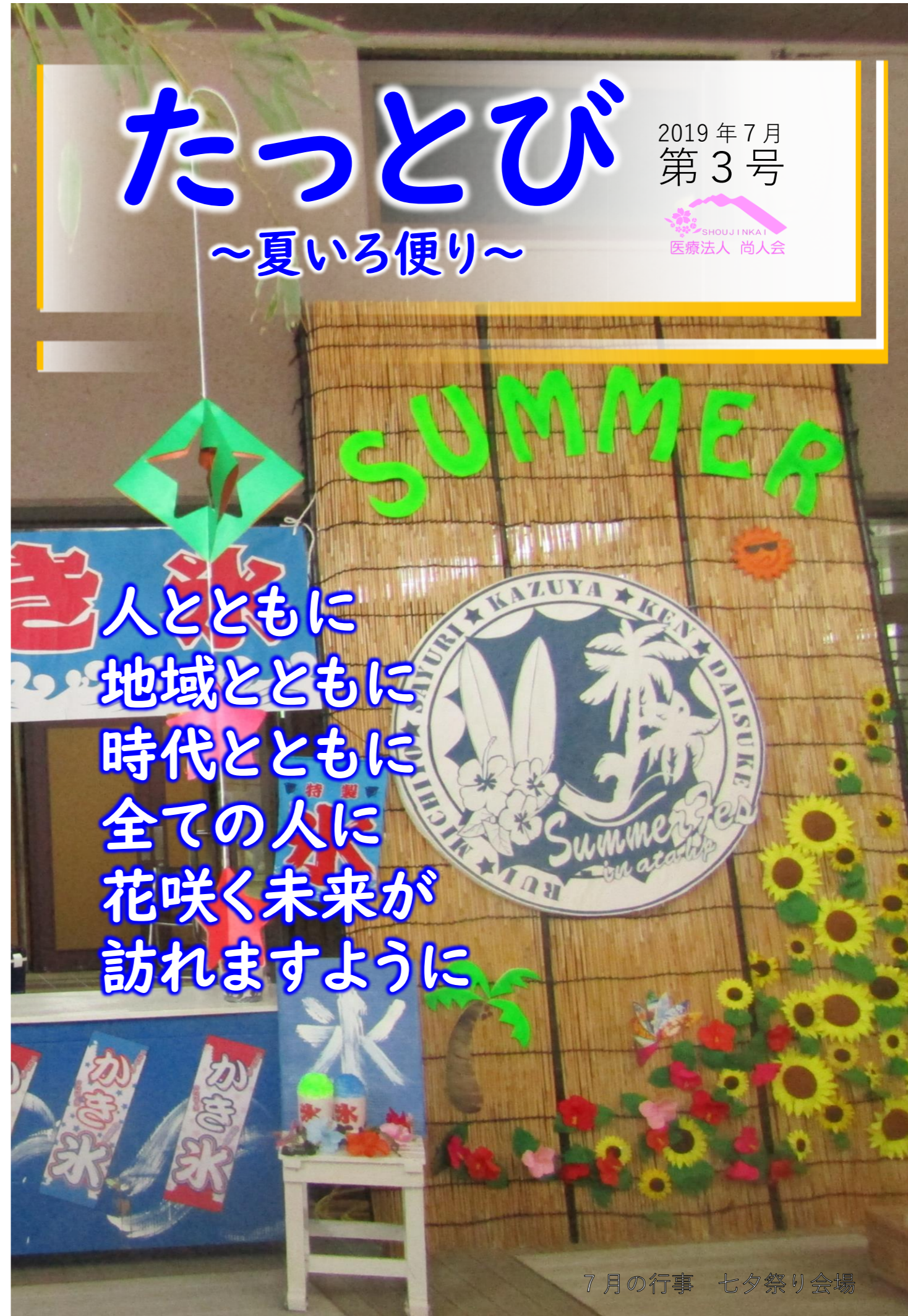
夏野菜を使った天津飯を作ってみた



【材料】	分量	【甘酢あん】	分量
御飯	1 人分	水	200 cc
卵	2 個	醤油	大さじ 2
カニカマ	4 本	砂糖	大さじ 1
塩	少々	オイスターソース	小さじ 1
サラダ油	大さじ 2	鶏がらスープの素	小さじ 1
グリーンピース	少量	酢	小さじ 1/2
乾燥キクラゲ	2~3 枚	片栗粉	小さじ 2
ナス	1 本		
パプリカ	1/2		
ごま油	少々		
深ねぎ	少量		

ナスとパプリカはゴマ油で炒めました。その上にできたてのアンをたっぷり乗せ出来上がり。甘酸っぱいアンに、ゴマ油で炒めた夏野菜がよく絡まって何とも言えない美味しさでした。ごちそうさまでした。

人とともに
地域とともに
時代とともに
全ての人に
花咲く未来が
訪れますように



医療法人尚人会 関連施設

阿多病院

共同生活援助
グループホームはなのせ
指定特定相談支援事業所
共 励 園

就労支援 B 型事業所
さくら工房

〒899-3512
鹿児島県南さつま市金峰町花瀬 1929
TEL 0993-77-1211
FAX 0993-77-1214

〒899-3511
鹿児島県南さつま市金峰町宮崎 4277-1
TEL 0993-76-8703
FAX 0993-76-8703

〒899-3512
鹿児島県南さつま市金峰町花瀬 1935-2
TEL 0993-78-3803
FAX 0993-77-1214



ホームページアドレス <http://atahp.com>